

ヴァイオリニストTAIRIKUの戯言

〔第29回〕

弦が揺れると、僕は季節の風になる

+ 文 佐田大陸 Text by Tairiku Sada +

ヴァイオリンの意外な値段設定とは
どうもTAIRIKUです。これからは定期的にヴァイオリニストならではの豆知識をお話ししていけたらなと思っています。

よく某格付けチェックなどに出てくる高額ヴァイオリンの代名詞と言われる、ストラディヴァリウス（以下ストラド）、それと双壁をなすガルネリ・デルジェス（以下ガルネリ）、それに続き3番手に君臨するのがガダニーニ。これがヴァイオリン業界でTOP3と言われている銘柄です。

約350年前にストラドがこの地に誕生してから、今まで数多の楽器が生まれましたが、不思議なことに未だにこれを超える楽器は存在しません。当時しか手に入らない木材やニスの上など諸説言われています。例えばインターネットのここ数十年の進化を考えると、ヴァイオリンが300年以上もアップデートされていないのは、逆に信じられないような出来事で面白いですよ。

現存する台数もストラドは世界に600挺以下と少ないので、ピカソやゴッホの絵と同じようにどんどん希少

価値が高まっていき、今では個人ではとても手が出ないほど値段が高騰しています。

日本の財団や企業の成功者、個人の資産家などが所有していて、演奏家に貸与している場合が多いようです。どうぞ僕にも貸してください。

ストラドは十数年前までは数億円くらいが相場だったようですが、最近が良いもので8億円以上とも言います。公式のオークションでの過去最高落札額は、2011年6月21日にイギリスで行われたオークションで、「レディ・ブランド」という名のストラドが約12億7000万円（当時の価格）で落札されました。

ちなみによく、ガルネリもストラドと双壁をなすと言われますが、台数がストラドよりかなり少ないです。プライベートセールでガルネリは、もっと高く売れたという話を聞きますが、真偽の程はわかりません。

もしもっと高い額の楽器をあなたが聞いたことがあれば、それはまだ売れてもいない楽器を、所有者や楽器屋さ

んが高額で謳っている場合もありますので、どうぞお気をつけください。また、とても意外ですが楽器の値段は音ではなく、その楽器の製作者や年代、作り、サイズ、状態、歴史、完成度などで決まるので、プレイヤーが楽器の良し悪しを正確に判断するのは難しいです。信頼できる楽器屋さん巡り合えれば、状態はあまり良くななくても安くて音のいい掘り出し物を探すことは可能かもしれません。

まだまだ用意した話題の10分の1も書ききれませんが、本日はこのあたりで。



profile

2010年3月に桐朋学園大学音楽学部大学院を修了。
2 ヴァイオリンとピアノのアンサンブル・ユニット「TSUKEMEN」のヴァイオリニストでリーダー。
2010年キングレコードからメジャーデビュー。
結成9年目にして450本以上の公演を海外や日本全国各地で開催、現在までにのべ35万人を動員している。